

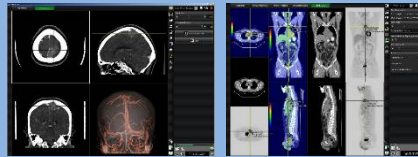
ブラジル国の開発ニーズ

- 疾病構造は、感染症から非感染症主体に移行中。死亡要因上位は虚血性心疾患、脳卒中、下気道感染症。早期発見を可能とする画像診断が必須
- 広大な国土に都市が散在。地方都市住民が高度医療にアクセスするには遠隔医療が重要

普及促進事業の内容

- サンパウロ大学附属病院とサンタクルス病院、アマゾニア病院へ「SYNAPSE」を導入
- サンパウロ大学附属病院と他2病院間において相互に画像を共有・閲覧ができる環境を構築
- サンパウロ大学附属病院と他2病院間にて、遠隔読影支援・症例検討会を計画・実施

富士フイルムの技術・製品



医用画像情報システム(PACS) 「SYNAPSE」

- ・検査画像と診療情報の一体管理
- ・地域医療連携ネットワークサービス

事業のポイント

- ・ ブラジル随一のサンパウロ大学附属病院へ「SYNAPSE」をパイロット導入することによる技術認知の拡大
- ・ サンパウロ大学附属病院と地方病院との症例検討会等の実施を通じた診断能力向上

ブラジル国側に期待される成果

- 3病院間において 遠隔画像診断環境が構築され、早期発見が可能となる
- 3病院間で遠隔読影支援・症例検討会が実施され、3病院の画像診断能力の向上と効率化
- 広大な国土をもつブラジルにおける遠隔医療を用いた都市と地方との医療レベル格差の是正

日本企業側に期待される成果

現状

- ブラジル国内において、遠隔画像診断の認知と優位性の理解をより促す必要がある

今後

- ブラジル随一の公立病院であるサンパウロ大学附属病院等への「SYNAPSE」導入の有用性の効果の理解と普及により、「SYNAPSE」の販売と共に、関連医用機器などの導入可能性が広がる